

平成22年 6月20日現在

研究種目：特定領域研究  
 研究期間：2005～2009  
 課題番号：17063014  
 研究課題名（和文） オアシス都市パルミラにおけるセム系部族文化の基層構造と再編  
 研究課題名（英文） The study on Semitic elements in Palmyra  
 研究代表者  
 宮下 佐江子（MIYASHITA SAEKO）  
 財団法人古代オリエント博物館・研究部・学芸課長  
 研究者番号：80132707

研究成果の概要（和文）：本研究ではセム系部族社会成立以後の紀元後1-3世紀のパルミラにおいて、セム系社会の文化がいかに残存し、また変容していたかをパルミラの葬制、美術作品などを考察して検証した。パルミラの様々な文化事象を分析し、その多様で複雑な様相に西方でも東方でもない彼らの伝統的な要素を見いだした。

研究成果の概要（英文）： The present study is to research how for the culture of a Semitic society to remain and to have transformed considering the funerary practice and sculptures in Palmyra of the 1-3th century. The Semitic tradition remains in the basis though the culture of Palmyra strongly undertakes the influence of the Mediterranean sea world and the east.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	3,200,000	0	3,200,000
2006年度	4,900,000	0	4,900,000
2007年度	3,900,000	0	3,900,000
2008年度	3,100,000	0	3,100,000
2009年度	3,300,000	0	3,300,000
総計	18,400,000	0	18,400,000

研究分野：考古美術

科研費の分科・細目：

キーワード：パルミラ 墓 彫像 コイン 葬制 セム系

#### 1. 研究開始当初の背景

(1) オアシス都市パルミラの研究は20世紀初頭から欧米の研究者を中心におこなわれ、第二次大戦後はシリア考古総局の管轄下で、各国の調査隊が発掘を行っている。

(2) 日本隊は1990年より参加し、これまでに7基の墓を調査し、2冊の報告書を刊行し、大きな評価を得ている。しかし、個々の事物の検証は端緒についたばかりであった。

#### 2. 研究の目的

(1) ローマ属州の自治都市であったパルミラの文化、芸術についてはギリシア・ローマの影響や交易都市として東方のイラン系文化の影響が報告されているが、彼らの故地セム系文化がそれらの基層にあることを墓の出土遺物を中心に明らかにする。

(2) 出土遺物を精査し、その由来や機能について再検討をおこなう。

#### 3. 研究の方法

これまでに発掘した出土遺物の比較検討

を行う。墓の彫刻にみられる装身具の分析、副葬品と被葬者の関係性、周辺遺跡出土コインとパルミラ出土品との比較等により、当時の社会状況の再構築を試みる。

#### 4. 研究成果

(1) これまで、見過ごされてきた墓室内彫刻の女性像にみられる装身具が紀元前700年頃のセム系文化によるものに由来することを明らかにした。

(2) 若い女性被葬者に伴って出土する骨製品が織機の付属品であることを明らかにし、羊骨の多様な活用、現代にまで続く伝統文化の継承を示した。

(3) ローマ帝国属州内で独自に使用された「属州コイン」のパルミラでの事例の検討をおこない、その性格を明らかにした

(4) パルミラの様々な文化事象を分析し、その多様で複雑な様相に西方でも東方でもない彼らの伝統的な要素を見いだした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計20件)

宮下佐江子 “Des statuettes de musiciennes en terre cuites Decouvertes en Syrie” 『古代オリエント博物館紀要』XXV 2005 1-16頁

西藤清秀 Excavation at the Southeast Necropolis in Palmyra 『パルミラにおける葬制とその社会的背景に関わる総合的研究』2005 127-141頁

西藤清秀 “New Discovery at the Southeast Necropolis in Palmyra”

『パルミラにおける葬制とその社会的背景に関わる総合的研究』2005 158-163頁

宮下佐江子 「パルミラの墓室彫刻に見られる外来要素について」『セム系部族社会の形成 Newsletter』2009 NO.15 14-16頁

津村真紀子 「パルミラにおけるコインの流通」『日本西アジア考古学会第14回総会大会要旨集』16 2009 61-65頁

津村真紀子 「3世紀前半のローマ・シリア属州のコイン」『ヘレニズム-イスラーム考古学研究』14 2009 21-26頁

宮下佐江子 「トルクの東漸と変容」『ヘレ

ニズム-イスラーム考古学研究』14 2009 1-20頁

宮下佐江子 “A propos des torques observés sur les sculptures des sépultures du royaume unifié de Silla” 『ラーフィダーン』31、pp.33-70 2010 [学会発表] (計13件)

西藤清秀 「シリア、パルミラの東南墓地H号墓(タイボールの墓)の修復と復元」

西アジア考古学会発掘報告会 2006年3月  
津村真輝子 「初期イスラーム時代の貨幣制度」第8回シンポジウム・イスラームとIT-イスラーム世界の経済と教育-2008年11月29日

津村真輝子 「パルミラのコインにみる部族性」公開シンポジウム(紀元前3千年紀の西アジア-ユーフラテス中流域に部族社会の原点を探る 2009年2月1日)

[図書] (計5件)

西藤清秀 『パルミラにおける葬制とその社会的背景に関わる総合的研究』2005

宮下佐江子 津村真紀子 『ユーラシアの風 新羅へ』2008山川出版社

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

[その他]

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

宮下 佐江子 (MIYASHITA SAEKO)  
古代オリエント博物館・研究部・学芸課長  
研究者番号: 80132707

##### (2) 研究分担者

津村 真輝子 (THUMURA MAKIKO)  
古代オリエント博物館・研究部・研究係長  
研究者番号: 60238128

##### (3) 連携研究者

西藤 清秀 (SAITOU KIYOHODE)  
榎原考古学研究所・文化財保存部・部長  
研究者番号: 80250372

